

ガーデンシティふかや推進室[ふかや緑の王国・深谷市櫛引24-2(花植木流通センター隣)] ☎551-5551

花を愛し、人を愛し、地域を愛するまちづくり!!

第17回森の音楽祭&第14回花の音楽祭 出演者募集!

第17回森の音楽祭inふかや緑の王国

とき 10月25日(土)午前10時～午後3時(雨天中止)

ところ ふかや緑の王国(特設ステージ)

定員 25組(抽選)

その他 アコースティック(生音)演奏に限る

申し込み 8月1日(金)から29日(金)までに応募用紙を問い合わせ先へ提出

※詳しくは市ホームページ(右記QRコードからアクセス)をご覧ください。



▲第16回森の音楽祭の様子

第14回花の音楽祭&秋野菜まつりin深谷グリーンパーク

とき 10月19日(日)午前10時～午後3時(雨天中止)

ところ 深谷グリーンパーク(特設フラワーステージ)

定員 10組(抽選)

その他 電子楽器・音響装置用の電源あり(100V)

申し込み・問い合わせ 7月11日(金)から8月29日(金)までに応募用紙をファクス(☎574-8611)または直接深谷グリーンパーク(☎574-5000)へ



▲第13回花の音楽祭の様子

夏休みガーデニング教室『草木染め 藍の雪花絞り染め体験』参加者募集!

木綿の手拭いに雪の結晶のような模様の藍染めをしてみませんか?こどもから大人まで楽しく体験できます。

対象 小学生以上(小学生は保護者同伴)

とき・ところ 8月6日(水)午前9時30分～11時30分・ふかや緑の王国多目的室

定員 20人(抽選) 参加料 2,000円(材料費を含む)

講師 小池啓子氏((一財)日本手工芸指導協会)

申し込み 7月16日(水)午前9時から22日(火)午後5時までに電子申請(下記QRコードからアクセス)で申し込み

※1回の申し込みで2人まで、電子申請ができない場合のみ問い合わせ先へ電話申し込み可

※熱中症対策として水分補給のため、各自で水筒などを持参してください。



▲作品イメージ

ガーデンガイドツアーを毎月開催しています!

ふかや緑の王国では、職員と一緒に園内を歩いて探索する『ふかや緑の王国園内ガイドツアー』を毎月開催しています。1時間程度、園内を散策しながら、見ごろを迎える草花を観察してみませんか。参加者には花の種と見ごろの花々をモチーフにした『フラワーカード』をプレゼントします。

集合場所 ふかや緑の王国正門『園内見ごろ草花掲示板』前

※開催日時などは市公式LINE、市ホームページなどで随時お知らせします。



▲市公式LINE



▲市ホームページ

7月に見ごろの草花

上旬



▲ダリア

▲クガイソウ

▲アーティチョーク

▲ヤマユリ

中旬



▲レンゲショウマ

▲キキョウ

下旬



▲ユーボリウム・パルム

▲キツリフネ

▲モミジアオイ



障害福祉

申請が必要な 手当・医療費支給

次の手当などを受けるには受給申請が必要です。詳しくはお問い合わせください。

閏障害福祉課(☎571-1011・FAX 574-6667)

	特別障害者手当	障害児福祉手当	在宅重度心身障害者手当
対象	20歳以上で、重度の障害により常時特別な介護を要するかた(3カ月以上の入院中のかたは対象外)※寝たきりの状態などで要介護4・5相当の一部のかたを含む	20歳未満で、身体障害者手帳1・2級の一部のかた、療育手帳A相当のかた(障害を事由とする年金を受給しているかたは対象外)	65歳未満で、身体障害者手帳1・2級、療育手帳A・A、精神障害者保健福祉手帳1級に認定されたかた
金額	月額29,590円	月額16,100円	月額5,000円
備考	・所得に応じて支給制限があります。また、施設に入所中のかたは対象外です。 ・特別障害者手当と障害児福祉手当の認定には医師による診断書の提出が必要です。		

重度心身障害者医療費支給

対象	市内に住所を有していて、医療保険に加入しており、次の①～④のいずれかに該当するかた ①身体障害者手帳1～3級のかた ②療育手帳A、A、Bのかた ③精神障害者保健福祉手帳1級のかた(ただし、精神病床への入院は除く) ④65歳以上で、後期高齢者医療制度の障害認定を受けたかた(条件あり) ※所得制限により助成対象とならないかたもあります。また、65歳以上で初めて手帳を取得したかたは対象外になります。
助成範囲	医療保険の適用となる医療費(一部負担金) ※高額療養費、附加給付金などが給付されている場合、相当額を控除した金額が支給の対象となります。自由診療(保険適用外)の負担金は支給の対象となりませんのでご注意ください。
所得審査	全受給者が所得制限の対象となり、毎年所得の判定を行います。対象者には9月下旬に所得審査結果などを送付します。

『青天を衝け』は巡信紀詩

令和3年放送の大河ドラマ『青天を衝け』では、前半の12話まで、米一の原点である血洗島の成長の日々が紹介されました。特に、後に実業家として活躍した米一が、家業の藍玉の製造・販売を通して商いに触れる場面が見どころでした。

この商いは、藍の葉を買い入れて染料のもととなる藍玉に加工し、藍染めを行う「紺屋」へ売るといふもので、先に藍玉を納品し、その分の代金を後で回収するという方法で行っていました。

この商売は、季節ごとに数回得意先を回ることが特徴で、初めは米一も、藍の目利きの名人



でもあった父親の市郎右衛門に同行し、次第に1人で得意先回りの旅に出るようになり、景色などの風物に触れ、漢詩を詠むことや各地の知識人と交流することなどが旅の楽しみでした。

米一の家の得意先は、信州の佐久や上田、上州の安中、秩父方面にあり、特に佐久では木内芳軒という漢詩人と親交があったため、米一が18歳の時、この尾高惇忠と信州へ向かった際、創作好きな2人は道中で詩作を楽しみ、『巡信紀詩』という詩集にまとめました。

巡信紀詩の中に収められた奇岩怪石そびえる雄大な峠である内山峠を詠んだ漢詩の一節『勢衝青天攘臂躋(勢いは青天を衝き臂を攘って躋り)』の『衝青天』が、日本の近代化のため力を尽くした渋沢米一の生涯が描かれた大河ドラマのタイトルになったのです。



▲内山峠の詩碑(拓本)